

平成25年度 第2四半期決算会見 社長あいさつ

本日は、「平成25年度 第2四半期決算」について発表させていただきます。

詳細については、後ほど担当役員からご説明いたしますので、私からは概要をお話しさせていただきます。

まず、平成25年度 第2四半期決算につきましては、一言で申しますと、連結では「増収増益」、個別では「増収・損失幅の縮小」となりました。

連結の売上高につきましては、前年同期に比べて販売電力量は減少したものの、燃料費調整制度の影響や「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」に基づく交付金を計上したことなどにより、69億円の増収となりました。

経常利益につきましては、為替の円安による原料費の増加などのマイナス要因があったものの、修繕費の低減など経営全般の効率化に努めた結果、前年同期に比べ128億円の増益となり、2年ぶりの黒字となりました。

一方、中国電力単体の決算につきましては、同様な理由から、経常利益ベースで131億円好転しましたが、円安による原料費の増加等の影響は大きく、損失幅は縮小したものの、前年同様、経常損失を計上する結果となりました。

以上のとおり、前年同期と比較して、連結・個別ともに業績は改善しておりますが、水準としては、過去最大の損失を計上した平成20年度、24年度の第2四半期決算に次ぐ水準であり、大変厳しい決算であると認識しております。

通期の業績見通しについては、第2四半期決算の発表にあわせて公表したいと考えておりましたが、先日、発電停止した三隅発電所の復旧時期が現時点では明確に見通せず、停止による影響額を算定できないことから、引き続き「未定」としております。従って、具体的な数字としてはお示しできませんが、上期は若干の黒字となったものの、通期での黒字化は大変厳しいと考えております。

今年4月の会見でお伝えしましたとおり、今年度は、調達コストの低減や燃料費の削減に加え、施策の中止・繰り延べ・規模縮小などの緊急避難的なコスト削減にも踏み込むことにより、560億円程度という大幅な効率化に全社を挙げて取り組んでおります。

当社といたしましては、まずは、目標とする過去最大規模の効率化を達成すること、その上で、更なる上積みを図っていくことにより、少しでも赤字幅を縮小してまいりたいと考えております。

また、こうした大変厳しい決算および業績見通しではありますが、当社におきましては、できる限り現行の電気料金水準を維持してまいりたいという思いに変わりはなく、引き続き全社を挙げて取り組んでまいります。

続いて、島根原子力発電所の状況についてお話しいたします。

島根原子力発電所の新規制基準への適合性審査申請に関しましては、現在進められている他の原子力発電所の審査内容等も踏まえながら、申請書の作成を鋭意進めているところであります。

現時点では、具体的な時期はお示しできませんが、準備が整った段階で、事前了解願の手続きを行いたいと考えております。

最後に、電力需給につきましては、今冬も一定の予備力を確保できる見通しですが、夏・冬を外す形での火力発電所の点検時期の調整も難しさを増しております。

また、現在、三隅発電所の復旧に向けて鋭意取り組んでおりますが、こうした計画外停止のリスク、特に高経年火力については、そのリスクと常に向き合いながら、高稼働を続けているのが現状であり、決して余裕のある状況ではございません。

今年は水害や台風なども多く、こうした自然災害に伴う停電の早期復旧も、安定供給の一つとして、当社がお客さまに期待される最も重要な役割であります。

当社が培ってきた技術力や現場の高い使命感を発揮し、引き続き全社一丸となって、安定供給を確保してまいります。

以 上